

産婦人科学系

産婦人科学系

- 日本産婦人科学会専門研修基幹施設
- 総合周産期母子医療センター
- 母体救命スーパー総合周産期センター
- 日本周産期・新生児医学会認定基幹施設
- 地域がん拠点病院
- 婦人科腫瘍専門医修練施設
- 日本女性医学会認定研修施設

- 産科：豊富な症例数（分娩 600 / 年）
- 婦人科：多数の手術件数（600 例 / 年）
- 3年間の研修で産婦人科専門医の取得が可能
- 女性にやさしい職場環境
- “早熟”な臨床能力の形成
- 一人前になった“その先”を見据えた教育

◆ 教室方針（教授就任の挨拶から）

1 目標を共有する

教室員は、向上心を持って目標に向かう

教授は、各自の目標を達成するための環境を提供する

2 「誇れる臨床」を行う

再現性のある臨床と国内有数の高度先進医療の実践

基本を修得し、論理性のある臨床は発展性がある

3 アカデミックな視点と精神をもって世界に発信する

4 研究の楽しさ・面白さを味わう

研究を「趣味」として体感する。未知なる世界を見る楽しさ。



◆ 後期研修 3年間の展望（2023～2025）

西暦	卒後（年目）	初期研修プログラム	内容
2023	3	専門研修プログラム （3年間）	産科周産期・婦人科腫瘍・ラパロセンター （日本大学病院）・生殖医療を6～12ヶ月 ごとにローテーションする。
2024	4		
2025	5		
日本産科婦人科学会 専門医試験			
2026	6*	サブスペシャリティー 修練期間	周産期、腫瘍、生殖医学を学ぶ 女性ヘルスケア（思春期、更年期、予防医学、 乳腺疾患など）
2027	7		
2028	8		
2029	9	サブスペシャリティー専門医試験	

* 日本産科婦人科学会 専門医試験：7月第4土／日に（筆記・面接）が行われる。

◆ 大学院について

令和6年度入学を希望する場合は川名教授に相談してください

入学試験は 日大医学部大学院ホームページ参照

<http://www.med.nihon-u.ac.jp/postgraduate/index.html>

患者利益に直結する、数多くの研究がなされています

<http://www.med.nihon-u.ac.jp/department/nuobgyn/laboratory.html>

◆ 産婦人科専門医の認定申請に必須である項目

- 1 3年以上の産婦人科の臨床研修を学会認定修練施設で受ける
- 2 過去5年間で日本産科婦人科学会学術講演会の1回以上参加する
- 3 学会または研究会で筆頭者として1回以上発表する
- 4 筆頭著者として論文1編以上を発表する
- 5 基幹施設での12か月以上の研修
- 6 1か月以上の地方枠※の連携施設での研修



上記を確実にこなし、3年間で産婦人科専門医になって頂きます。

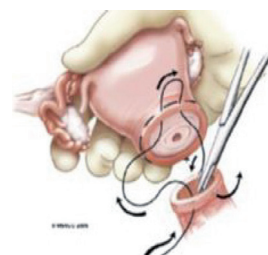
多彩な連携病院



◆ まず 産婦人科専門修練医としての後期研修 を開始

学会入会	日本産科婦人科学会（専門医修練には必須）
学会発表	数回／年の地方学会、関東連合、日本産科婦人科学会総会 ほか
内外のカンファレンス・研究会	病院 CPC 産科・小児科合同カンファレンス 婦人科・病理合同カンファレンス（学外研究会は1～2か月に1回）

◆ 毎週水曜日（8時～）卒前・卒後レクチャー（川名教授）＋症例検討会



最新のエビデンスに基づいたレクチャー、治療方針の検討などを共有しています。
聞いているだけで最先端の医療知識が身についていきます。

◆ 修得可能な専門医・認定医・資格（各学会の入会が必須）

産婦人科専門医	細胞診専門医
母体胎児専門医	臨床遺伝専門医
婦人科腫瘍専門医	女性ヘルスケア専門医
生殖医療専門医	がん治療認定医
内視鏡技術認定医	性感染認定医 など



【診療部門の紹介】

➤ 3B + 3M 病棟 スーパー総合周産期センター

（東京都母体救命対応型総合周産期母子医療センター）

心疾患・脳疾患、羊水塞栓症など、救命処置が必要な妊婦の救急搬送も受け入れ、救命センターや新生児科・小児外科と連携し、新たな命の誕生に貢献している。

周産期専門医（母体・胎児）、超音波専門医、臨床遺伝専門医を中心に新生児科・小児外科と共に高度な周産期管理を実践している。

2022年4月より無痛分娩を開始しました。

➤ 3A 病棟 それぞれの夢を持っている婦人科手術・腫瘍

若年子宮頸癌で子宮・卵巣を温存した広汎トラケレクトミー、子宮体癌の腹腔鏡下手術、Davinci手術など、

高度医療は当教室のお家芸です。

皆、目標に向かって切磋琢磨し、輝いています。



➤ 日本大学病院（御茶ノ水・神田駿河台） 産婦人科

内視鏡手術を年間 200 件以上行っている研修環境なので、技術の修得が早い。



➤ 外来診療・不妊生殖内分泌（板橋病院）

子宮頸がんのトラケクトミー後など、産婦人科をはじめとしたあらゆる診療科のがん治療と連携した一般不妊治療、生殖補助医療も行っております。



問い合わせ先

〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町 30-1 日本大学板橋病院 産婦人科医局

TEL：03-3972-8111 FAX：03-3972-9612（産婦人科医局 内線 2522）

ホームページ：<http://www.med.nihon-u.ac.jp/department/nuobgyn/>

産婦人科 医局長 小松 篤史

E-mail：nichidaisanpuikyokucyo@gmail.com